

欧米の経済指標の改善を受けて、世界的に株高の流れ

2010年9月27日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

予想を上回る欧米のマクロ経済指標を好感して欧米株は軒並み大幅高

アナリストによる素材株の投資判断引き下げ等を背景に、欧州株式市場は小幅安で始まりました。また、欧州周辺国のソブリンリスクへの懸念が依然としてくすぶる中、対独スプレッドは拡大し、銀行セクター中心に売りを主導する場面もありました。ただし、予想を上回る欧米のマクロ経済指標を受けて景気減速懸念が和らぐと、銀行株も買い戻しが優勢となり、欧州株はプラスに転じた後、上げ幅を拡大させて引けました。

9月のドイツのIfo企業景況感指数は106.8と、予想(106.4)に反して前月(106.7)より上昇し、07年6月以来の高水準となりました。これを受けて、為替市場ではユーロ・ドルが回復したほか、銅などの商品先物市場も総じて堅調でした。

米国株式市場も大幅高で始まり、終始堅調な展開となりました。全面高の中、上昇を牽引したのは資本財や金融、素材などでした。また、米テクノロジー大手のCEOが買収に意欲的な姿勢を示したことから、ハイテク株も堅調でした。

8月の米耐久財受注で、設備投資の先行指標とされる非国防資本財受注(航空機は除く)は前月比+4.1%と、予想(▲1%)に反して増加し、前月(▲5.3%)からプラスに転じました。項目別ではコンピューターや電子機器、機械がプラスに転じました。また、前月分が速報値より上方修正されたことも好感されました。一方、8月の新築一戸建て住宅販売件数は前月比変わらずの28.8万戸と、予想(29.5万戸)を下回りました。ただし、前月分が速報値より上方修正されたほか、住宅市場の低迷はある程度織り込まれていたことなどから、市場の反応は限定的にとどまりました。

海外株高の流れを受けて日本株も輸出関連株主導で連れ高

欧米株高を受けて日本株は堅調に始まり、日経平均先物は9,500円ちょうどで寄り付きました。海外市場同様、景気敏感株中心に上昇が目立ち、金融株など一部のセクターを除き、多くのセクターがプラスで始まりました。経営再建中の消費者金融大手が会社更生法を適用申請する見通しであることが報じられたことから、当銘柄を含め、消費者金融大手株は軒並み売り気配で始まりました。また、ノンバンクを傘下に置く銀行株の一角も売られ、銀行株中心に安値更新銘柄が目立ちました。しかし、欧米の景気回復鈍化懸念がやや後退したことから電機セクター等の主力株中心に買い戻しが優勢で株価指数を押し上げました。

株価指数全体の日中値幅はそれほど大きくなく、あまり目立った動きはありませんでしたが、朝方は50%台にとどまっていた値上がり銘柄数も大引け近辺では80%程度まで増加するなど、終始、買いが優勢の展開でした。また、本日が3月や9月期の決算銘柄の権利付き最終売買日であることも、株式市場にとって追い風となりました。結局、日経平均株価は4日ぶりに反発し、前日比+131円高の9,603円と本日の高値圏で引けました。ただし、売買高はそれほど膨らまず、積極的な買いは見られませんでした。日米経済指標の改善を受けて、アジア株も含めて世界的に株高となりましたが、足元で弱かった銘柄中心にショートカバーの動きが優勢で、投資家は依然として慎重姿勢を緩めるには至っていない感じが感じられました。

以上